

平成29年度 府立桃山高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○文武両道・自主自律の校是のもと、学習と部活動の両立を図り、知・徳・体の調和のとれた創造性あふれる心豊かな人間の育成を目指す。</p> <p>○SSH2期目の指定のもと、「自然科学科」「普通科」それぞれの特色を踏まえ、生徒一人ひとりの個性や能力を伸長させ、魅力ある学校づくりを一層推進する。</p> <p>○公立高校の中核校として、次代を担う人材の育成を図るとともに、府民の期待に応える学校づくりを推進する。</p> <p>○新学習指導要領をふまえた教育活動を推進する。</p>	<p>成果</p> <p>(1) 本校の特色や新制度の下での普通科の教育理念、またSSH2期目の指定校としての取組等を中学生・保護者に伝え理解を得て、前年度に引き続き学習意欲が高く本校の様々な取組に高い関心のある入学生を迎えることができた。</p> <p>(2) SSH事業において、探究型融合教科「GS サイエンス英語Ⅰ」や「GS 教養Ⅰ」など新しい学校設定科目を実施するとともに、普通科課題研究を学校をあげて実施するなど、SSH事業拡大・充実に努めた。</p> <p>(3) 新制度の下で入学した学習意欲の高い生徒に対し、組織的な教科指導や進路指導の実施に努め、国公立大学現役合格者数を倍増させるなど、希望進路実現に向けた取組を推進した。</p> <p>(4) 課題を抱える生徒に対して、個別支援計画を作成し、全教職員の共通理解を図りながら、より丁寧で組織的な支援を行うことで、学校生活や学習継続に著実な成果をあげた。</p> <p>課題</p> <p>(1) 文武両道・自主自律の校訓を大切にしつつ、生徒層が「変革期」に入った点を踏まえ、一層の授業改善に取り組むとともに、SSH事業と部活動、進学補習等とのバランスに配慮し、生徒の総合力を更に伸ばすための指導の工夫が必要である。</p> <p>(2) 生徒の進路希望の拡大・実現に向けて、進路指導のさらなる工夫改善を図るなど、卒業後を見据えたキャリア教育の推進に努める必要がある。</p> <p>(3) SSH事業2期目の中間年を迎えるに当たって、普通科・自然科学科ともども、課題研究の深化・充実に努めるなど、全校体制でSSH事業の推進に努める必要がある。</p> <p>(4) 自転車乗車マナーやスマートフォンの使用に関して継続して生徒への指導を強化するとともに、支援の必要な生徒に対して、引き続き丁寧で組織的な支援に努める必要がある。</p>	<p>(1) ワンランク上の文武両道を実現する取組の中で、生徒が「夢・感動・挑戦」を実感できる学校作りを目指す。 また、生徒が時間を計画的・効果的に活用できるよう指導するなど、自主自律を目指した取組の推進に努める。</p> <p>(2) 生徒の将来を見据えた進路指導を進める中で、進路希望の拡大、希望進路の実現を目指した取組を進める。 とりわけ、校内外の研修を積極的に行うなど、質の高い授業づくりに努めるとともに、AO・推薦入試、センター試験及び二次試験に向けて、計画的・組織的な指導や補習の充実に努める。</p> <p>(3) SSH事業2期目の中間年を迎えるに当たって、教員研修等を通して、課題研究に向けた共通認識を深め、取組の充実に努めるなど、SSHの取組が桃山高校の文化として定着できるよう、全校体制でSSH事業に取り組む。</p> <p>(4) 基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識を高め、特に自転車の乗車マナーやスマートフォンの利用に対する継続的な指導を進める。また主権者教育については、教科を中心に、引き続き指導を進めていく。</p> <p>(5) 個別支援計画の作成・効果的な活用など、特別支援教育の充実に努めるとともに、適応対策会議・教科会議を活用して、課題を抱える生徒に対する支援に組織全体で取り組む。</p> <p>(6) 普通科のSS・GPコースのイベント充実に努めるなど、普通科における特色の推進を組織的に行う。 また、HP、広報ビデオ、広報誌等の充実に努めるとともに、本校説明会はもとより、機会を捉えて積極的に様々な説明会に参加するなど、桃山高校が目指すもの、本校の魅力を、効果的にかつ幅広く広報する。</p>

分掌領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教務部	あらゆる教育活動を通して創造性あふれる心豊かな人間の育成を目指す。	分掌、教科、及び各種会議と連携を取り、行事等を調整して計画する。そのため教科主任会を授業時間内に設定する。		
		1, 2年次における模擬試験等の成績推移を随時分析し、進路指導部と連携して課題の早期発見と対策を考える。		
		様々な活動や取組状況の把握に努め、教職員への情報提供とコンセンサスの共有を図る。		
	生徒の進路希望と将来を見据えた魅力的な教育課程を編成する。	現行教育課程について、カリキュラム検討会議や教科主任会議で課題を検証し対応を考える。		
		平成30年度入学生の教育課程の編成にあたり、各教科や進路指導部及び教育企画推進部と連携して、生徒の進路希望実現に対応したカリキュラムの具現化に努める。		
		他校や教育関係機関などと連携を深め、教育課程の研究に努める。		
	自主自律の精神のもと、主体的・対話的に学ぶ態度の育成を目指す。	シラバスを活用した主体的・自発的な学習態度の育成を図る。また、手帳を活用して日々の生活や学習計画をデザインさせ、自主（家庭）学習の強化に努める。		
		担任と連携して学習状況の振るわない生徒を早期に把握し、課題解決に向けた対策を充実させる。		
		研究授業、授業評価、教員研修などを活用して授業改善を図る。特に、研究授業の実施方法を検討する。チャイムと同時に授業を始められるよう（ベル着）、教員全体で指導の意思統一を図る。		
各科目の評定分布を集約し、生徒全体の相対的な学力を踏まえ、適切な評定の付け方について教員全体で共通理解を図る。観点別評価の完全な実施に向けて研修を深める。				
生徒指導部	文武両道・自主自律の精神を育む。	基本的な生活習慣の確立のため、全教職員による朝の登校指導を徹底する。制服の正しい着用と身だしなみの指導を徹底する。		
		学校行事をさらに充実させる。生徒会活動及び各種委員会活動の活性化を図る。		
		部活動の入部率を高水準に保ち、文武両道を具現化する。		
	規範意識を高め、良識ある人間性を構築する。桃山高校生として自覚と誇りを持たせ、責任ある行動を身に付けさせる。	交通法規の遵守と交通マナーを高める指導を徹底する。		
		不適切なSNSへの投稿等を含むスマートフォンの使用に関する指導を徹底する。		
		性犯罪の被害防止に努め、特に早い情報収集と全校生徒への注意喚起を徹底する。薬物乱用の未然防止に係わる啓発活動を徹底する。貴重品の管理や防犯意識を高める指導を徹底する。		
人間の尊厳に対する自覚を高め、自他の生命と人権を尊重する態度を育成する。	いじめ・悪戯・中傷や人権を脅かす行為に対する厳しい指導を徹底する。また、他分掌と連携し被害生徒に対するサポートを行う。			

分掌領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
進路指導部	生徒一人ひとりの希望進路実現に向けて方策を講じる。	通年補習（早朝、放課後、土曜日）、長期休業中補習（夏期、冬期）、国公立二次対策補習（1・2・3月）、個別指導（日常、面接、小論文）を充実させる。		
		模擬試験を有効に活用できるような時期や模擬試験内容を検討するとともに、部活動と両立できるような限りの方策を講じる。また、結果について分析を行い、進路指導につなげる。		
		自習室を開放し、学習アドバイザーを有効に活用し、生徒たちが学習する環境を整える。		
	キャリア教育の観点に基づく生徒のキャリア形成と教職員への啓発を行う。	小論文・志望理由書などの講習会や模擬試験を行い、生徒たちが自分の将来像を描く手がかりを与える。		
		教職員に対して小論文の指導研修を行い、全教員で指導できる体制づくりを行う。		
		外部講師や卒業生を中心とする大学生による講演会を行い、生徒たちが進むべき道に興味や関心を持てるようにする。		
	保護者や校内の他分掌、外部の団体と連携する。	保護者に対して学年ごとの説明会や入試説明会を積極的に実施し、本校の進路指導を広く理解してもらう機会を設ける。		
		教員対象の就職説明会や入試説明会、入試研修会の参加を啓発し、全教員が変化する進学環境に対応できるようにする。		
		学校全体として進路指導に対して一致した指導ができるように、学年部や他の分掌と連携を密にする。		
教育企画推進部 (広報)	前期入学者選抜の円滑な運営を行う。	昨年度の小さな課題を修正して、より円滑な運営を行う。		
	校内のICT教育環境を整備し、教職員のICT利用の環境整備と支援を行う。	関係各分掌と連携して、校内のサーバやコンピューター環境の整備と安定的運用を図る。		
	本校を第1志望として選択してもらうよう、広報活動をより充実したものにす。	<紙メディアを媒体とした広報活動> 関係各分掌と連携して、『スクールガイド』、『学校案内』、『@桃山2017』(年2回の広報紙)、『ポスター』を作成する。		
		<DVDを媒体とした広報活動> 本校の魅力を伝えるDVDを作成し、本校の教育活動を視覚的に伝える。		
		<中学校等訪問> 中学校や関係機関に可能な限り訪問し、本校及び各学科についての説明を行う。		
		<学校説明会> 中学生等を対象に計6回の桃山高校説明会を、また中学校教員等への説明会を企画・運営する。		
		<ホームページの管理・運営> ホームページを頻繁に更新しながら、本校の教育活動に関する情報を積極的に外部に発信する。		
<中学生の本校訪問> 中学生の本校訪問に丁寧に対応し、本校及び各学科についての説明を行う。				

分掌領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教育企画推進部 (SSH)	3年間を見通した探究活動を推進する。	「GS課題研究」に、3年生を評価者役や助言者役として参加させる。(3年目：指導的立場)		
		3年間の取組を連続的に把握できるようにアンケート調査を工夫する。		
		3年生での探究活動について、理科やGS科で実施している通常実験を工夫することで実施する。		
	「GS科目」間の連携を強化する。	「GSロジック」と「GSベーシック」と「GS自然科学」の指導内容を比較し、より効率的で効果的な指導方法を検討する。		
		「GSBASIC・GSベーシック(準備)」と「GS課題研究(実践)」と「3年次探究活動(振り返り)」を連動させた指導方法を提案する。		
		「GSベーシック」と「GSサイエンス英語Ⅰ」と「GSサイエンス英語Ⅱ」について、英語力の育成という観点で、より効率的で効果的な指導方法を確立する。		
	成果と課題の見える化を推進する。	次年度以降の科目担当者のために、教材集や指導例集を文書化する。		
		学校ホームページに、開発した教材等を公開する。		
		GS科目のアンケート結果等を、職員会議等で公開する。		
保健部	健康面での自己管理能力と、安全な生活を営む正しい判断力の育成のため、健康・安全教育を推進する。	学校医との連携により定期及び臨時健康診断を適切に行い、速やかな事後指導を通して自己管理の重要性を認識させる。		
		「薬物乱用防止教育」「性教育」講演会や救急処置講習会を実施し、健康で安全な生活を自ら作り上げる意識を醸成する。		
		生徒保健委員会活動(保健だよりの発行や文化祭企画)を通じて、健康安全の啓蒙活動をさらに主体的なものへと進化させる。		
	心身の健康に課題を抱えた生徒への支援の充実を図る。	生徒・保護者に対するカウンセリングの実施、カウンセラーの指導助言と教務部や担任団との情報共有のもと、組織的な対応の充実を図る。		
		特別な配慮を要する生徒に対して教科担当者会議を機動的に開き、必要に応じて特別支援学校の巡回相談の活用や個別支援計画を作成する。		
		要配慮生徒についての情報を教職員全体で共有し、万一の場合に適切な対応がとれるようにする。		
	環境美化について関心を持たせ、環境保全を実行できる能力を育成する。	日常の清掃活動や定期的な大掃除を徹底し、学習環境を清潔・快適に保持するとともに、ゴミの分別、紙ごみの持ち帰り指導を徹底することでゴミの減量化に努める。		
		生徒美化委員会の活動を通じて、主体的な環境美化活動を展開する。		
		定期環境衛生検査(水質・照度・空気・薬品・ダニアレルゲン)を実施する。		

分掌領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
図書部	本校の中核的なラーニングセンターとして位置づけられる図書館を目指した教育環境の整備を図るとともに、生徒の主体的な活動を育成するために、図書委員会活動を推進する。	図書館資料等の充実を図るとともに、コンピューター機器の更新により、図書館業務の安定化を目指す。		
		学級文庫の設置や新刊案内など、図書館外での読書活動の啓発を進め、学校全体で読書活動を深められる機運醸成に努める。		
		年間を通して図書委員による自主的な委員会活動を促進し、生徒目線の親しみやすい図書館を創造する。		
	本校教育の成果向上に寄与するため、関係分掌と連携し質の高い事業を実施する。	芸術鑑賞事業の実施を通して、文化活動を愛好する心情を育てるとともに、豊かな情操を養う。		
		国語科と連携し、校内外における読書感想文コンクールの諸活動を行い、読書感想文集を発行する。		
		教職員による図書推薦や、関係分掌と連携し、SSH事業を中心とする課題研究学習等での利用を積極的に推進する。		
ICT化時代を踏まえた新しい視聴覚機器・コンテンツの整備や充実を図る。	視聴覚教室及び視聴覚機器の整備、更新、充実を通して、教職員が利用しやすい環境を整える。			
	生徒用PCなどの機器更新を進めるとともに、魅力的なコンテンツの収集を通して、SSH事業をはじめとする本校の特色ある教育活動に貢献する。			
第1学年部	人間性豊かな生徒を育てる。	基本的な生活習慣を確立し、本校の伝統である自主自律の精神を育む。生徒一人ひとりが高いレベルで勉強と部活動等を両立させようとする意欲と態度を育成する。		
		人間の尊厳に対する自覚を高め、自他の生命と人権を尊重する態度を育む。		
		社会的規範意識の向上を図り、社会的責任を自覚させる。		
	主体的に学習に取り組む力を高め、学力の向上を図る。	学習内容の徹底理解に努め、基礎力を養成する。課題の提出等に関して教科担当と連携を密に取り、学習のための心構えを指導していく。		
		高校生としての真摯な学習態度を身につけ、あわせて予習・復習の定着と自学自習の習慣を確立する。自習室等も利用した自主学習1日2時間以上を習慣化する。		
		「学習手帳」と「ポートフォリオ」を活用させ、自らが考え学ぶ姿勢を身に付けさせる。		
	希望進路の実現に向けた取り組みの充実を図る。	自分の適性・能力などの発見に努め、将来の進路を明確にしていく。上級学校について調べる機会を作り、高い目標と意識を持たせる。		
		関係分掌と連携し、文理選択や科目選択等に役立つガイダンスや進路ホームルームを実施する。		
		客観的な学力実態を分析・把握し、適切な評価の在り方を関係分掌と連携を図りながら検討する。		

分掌領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
第2学年部	学年の方針や生徒の状況等を教員間で交流し、他分掌と連絡を密にとりながら効果的な学年運営を目指して協力体制を整える。	分掌内外の発信と受信が学年団のメンバーに明確になるように努める。			
		担任間でクラスの状況や個々の生徒の状況を交流し、学年全体で統一した指導体制を作る。			
		他分掌とも情報を共有し、連絡・連携を密に図り、必要があれば協力を求めて学校としての指導を行う。			
	自主・自律の精神のもと、生徒一人ひとりが主体的に学習する力、部活動や各種行事等にも意欲的に取り組む姿勢を育ててゆく中で、豊かな人間性を身に付けた、成熟した生徒集団の形成を目指す。	ヘル着の励行。授業開始、終了の挨拶の徹底。出席状況や課題の提出等に関して教科担当と連携を密に取り、学習のための心構えを引き続き指導していく。また教室の美化に努めることで、学習環境を整え、学習効果を向上させる。			
		挨拶や正しい言葉遣いを指導する。引き続き遅刻防止指導を強化し、基本的な生活習慣の確立に努める。研修旅行を控え、集団の中での個人の責任を自覚させ、日常的に実践させる。携帯電話・スマホの使用や自転車の通行マナーについて指導を強化する。個人面談等を利用して、生徒が理解・納得するように働きかけ、信頼関係を築いていく。			
		クラス活動や学校行事について担任間で協力体制を作り、学年全体で運営していく。また部活動等において、生徒一人ひとりが上級学年としての自覚を持って行動できるように指導し、中心的な立場を担わせていく。			
自然科学科、普通科理系・文系の生徒の希望進路の実現に向け、それぞれのコースに応じた進路情報を提供し、さらなる意識の啓発に努める。	進路指導部と連携してオープンキャンパス等の各種機会を活用して、具体的な進路目標の設定に取り組む。				
	LHRの進路学習を系統的に実施し、必要な進路情報の提供に努める。				
	個別面談を丁寧に行い、生徒の実態把握と必要なアドバイスの機会を拡充する。安易に妥協して進路目標を設定するのではなく、向上心を持ってより高い目標にチャレンジする姿勢を育てる。				
第3学年部	様々な活動をクラスおよび学年全体で協力して取り組ませることにより、やり切ることの充実感・達成感を感じさせる。	部活動については最後までしっかりやり切り、文化祭へ向けてはクラスの中で助け合いながらレベルの高い演劇を創造することで、達成感を味わうとともに、互いに切磋琢磨し、学校全体が個人を応援するムードを作り上げる。			
		昨年度に引き続き、国公立大学の推薦入試等を見据えて、客観的な学力実態を分析・把握し、関係分掌と連携を図りながら進路指導に努める。			
		生徒には「自己の理解」と「大学入試システムの理解」に努めさせるとともに、個々の能力や個性に応じた進路指導を行うための検討会を学年と進路指導部が共同で実施する。			
	進路希望に応じた自発的な学習を啓蒙し、志望校決定へ向けて積極的に取り組む姿勢を醸成するために必要な情報の提供の仕方を検討していく。	スタディーサポートや模擬試験の結果を分析し、課題等を早期に発見して教員の共通認識を図るとともに適切な対策をとる。ベネッセコーポレーションの進研模試デジタルサービスを活用して自発的に学習できるように指導する。			
		LHRの進路学習を系統的に実施し、進路情報の提供と自己理解及び志望校の決定に努める。進路指導部と連携し、上級学校について調べる機会を作り、高い目標と意識を持たせる。			
		学習手帳や種々の資料を活用し、自主学習の十分な時間の確保を習慣化させることを目標とする。また自習室の効果的な利用を促す中で自ら学力を高めることが出来る資質を育成する。			
基本的な生活習慣を充実させ、規範意識や社会性、コミュニケーション能力を高め、成熟した生徒集団を育成する。	自主自律の校訓のもと、自らの行動に責任を持って行動し、高校生として協働性を備え主体的に社会に貢献しようとする志を身に付けさせる。				
	高校生としての挨拶や正しい言葉遣いを指導する。遠方から通学する生徒の増加に伴い、引き続き遅刻防止指導を継続する。また自転車通学の生徒にはルールやマナーを守り、自他共に安全な交通環境づくりに貢献させる。				
	主権者教育の一環として社会と共生するための相互尊重のルールを身に付け、民主的な社会の維持・発展を図るために必要な知識や見方・考え方を習得し国家・社会の形成者としての資質を育む。				